

漢字への関心と能力は関係があるのか

国語班：岩本直樹 南条美乃里 吉田夏子

1. はじめに

今日の高校生は携帯電話、スマートフォン、パソコンの普及により文字を書く機会が減り正確に漢字を読み書きする力が落ちてきているのではないかと思った。そこで、高津高校生の漢字に対しての意識、実力、またその関係を調査し、分析することにした。

2. 研究方法

以下のアンケートとテストを実施した。

漢検の問題（2級～5級）を参考にし、高校生が答えられるレベルの「読み」5問、「書き」5問の合計10点満点のテストと、4つの質問

- ① 「漢字を正しく使えている自信はある」
- ② 「文章を書くときに意識的（積極的）に漢字を使っている」
- ③ 「学校の教材以外で漢字を勉強したことがある」
- ④ 「漢字は日本語において必要不可欠である」

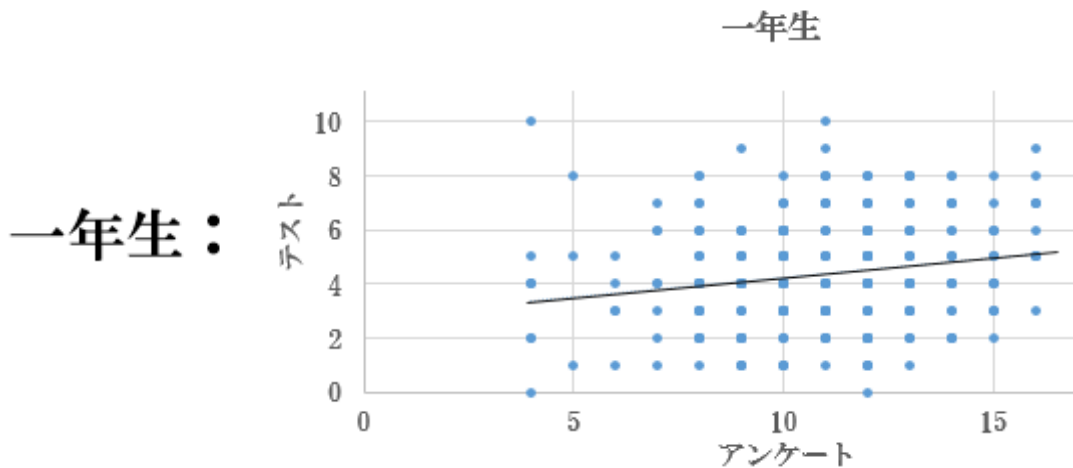
を「当てはまらない」1点、「あまり当てはまらない」2点、「当てはまる」3点、「よく当てはまる」を4点とし、合計16点満点のアンケートを実施した。

3. 結果

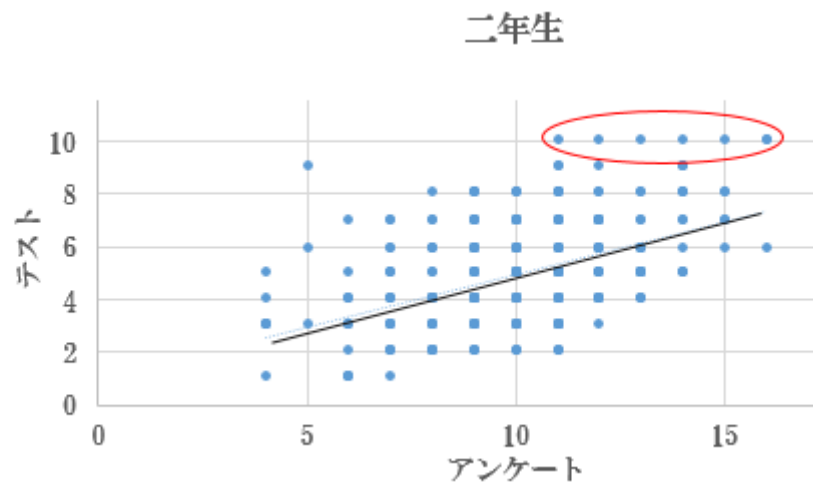
テスト：平均点 1年 4.35 2年 4.94

「書き」平均 2.52 「読み」平均 2.08

アンケート：質問別平均点①2.26 ②2.60 ③2.17 ④3.51



二年生：



4. 考察

漢字テストで満点近く取っている人は、アンケート結果も良いことが判明した。

「漢字は日本語に必要不可欠である」の質問に対する平均点はほぼ満点という結果であった。あわせて「漢字を正しく使えている」、「学校の教材以外で漢字を勉強したことがある」の質問に対する平均点は低いという結果より、ほとんどの人が日本語において漢字は必要だと感じているが、苦手意識を持っている人や、特に漢字についての勉強をしない人が多いことがわかった。また、個々の結果に明確な差はみられなかったが、それは普段授業などで大人よりも漢字に触れる機会が多いからではないかと考えられる。

5. 結論

考察から、高津生の漢字への意識と能力に相関があるとわかる。高校生に漢字について関心を持ってもらうには、日々の授業で意識させることが大切であると考え。今後は、スマートフォンの使用時間と、アンケートまたはテストとの関係や、漢字力向上の方法を模索していきたい。

6. 参考文献ならびに参考 Web ページ

公益財団法人 日本漢字能力検定 www.kanken.or.jp

阿辻哲次 漢字のはなし (岩波ジュニア文庫)

中京大 変換候補選択による漢字学習支援システム